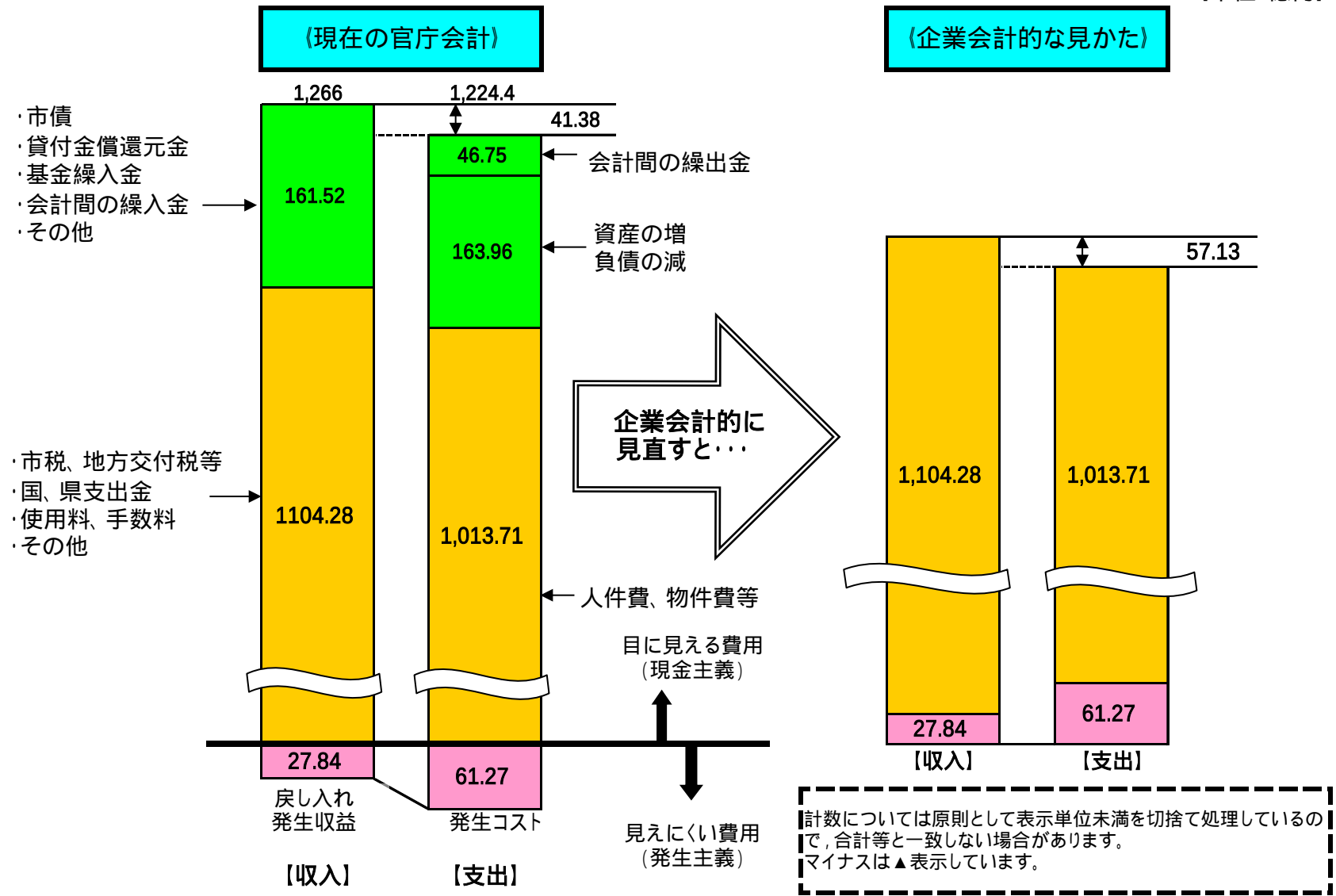


官庁会計を企業会計的に見直すと・・・

1. 平成27年度の一般会計と6特別会計の連結決算では、41億3,800万円の収入支出差引残となりますが、視点を変えると、収支差額は57億1,300万円のプラスとなります。

【単位：億円】



■ 現在の官庁会計による収支決算(歳入から歳出を差し引く)では、41億3,800万円の差引残ですが、これを企業会計的な視点から見直すと、収支差額は57億1,300万円のプラスとなります。

■ その要因としては、収入(歳入)に関しては市債収入、貸付金償還元金収入、基金繰入金、会計間の繰入金などを控除する一方で、国県補助金の戻し入れや発生収益を加えていること。支出(歳出)に関しては会計間の繰出金や、資産の増加や負債の減少に係る費用を控除する一方で、減価償却費や退職給与引当金繰入額 (発生主義特有の現金支出を伴わない費用)などを加えていることが挙げられます。

2. 太田市バランスシートの特徴

- 「台帳方式」を基本としています
自治体のバランスシートについては、多くの自治体が「総務省方式」を用いていますが、本市では企業会計の原則に従って各種台帳データに基づいて財務書類を作成する「台帳方式」を基本とし、総務省方式を補完的に用いる方法を採用しています。
数値の具体的な根拠が説明可能であり、活用できるバランスシートとするためです。
- 連結バランスシートになっています
太田市全体の財政状態を明らかにするために、一般会計と特別会計、公営企業等会計、一部事務組合、第三セクター等を合算した「連結」バランスシートを作成しています。
《特別会計》 国民健康保険、住宅新築資金等貸付、後期高齢者医療、八王子山墓園、介護保険、太陽光発電事業
《公営企業等会計》 下水道事業等、水道事業、土地開発公社
《一部事務組合》 太田市外三町広域清掃組合
《第三セクター等》 太田市文化スポーツ振興財団、太田市健診センター、地域産学官連携ものづくり研究機構、太田市行政管理公社
- 建設仮勘定、普通財産、不納引当金なども計上しています
より実態に即した財務書類とするために、継続事業等により未完成の施設などを「建設仮勘定」として、特定の行政目的に使用されていない「普通財産」の評価額、市税等の不納欠損見込額や貸付金の焦げ付き債権額などを「不納引当金」として、それぞれ計上しています。